

『ウルバーノ・モンテ年代記』にみる 天正遣欧使節と織豊期の日本(一)

伊川健二

はじめに

『ウルバーノ・モンテ年代記』はミラノの地理学者ウルバーノ・モンテの年代記で、正確には『いわゆるモンティ家のかかる名をもつウルバーノ三世(の記録)(Urbano Terzo di Tal nome In detta Famiglia De' Monti)』全四巻である。世界最大級のレオナルド・ダ・ヴィンチ手稿コレクションであるアトランティコ手稿(Codice Atlantico)を所蔵していることで知られる、アンプロジアーナ図書館(Biblioteca Ambrosiana)が、この年代記を所蔵(請求番号Ms. P. 251. sup)している。同館は、ミラノの中心部、ミラノ大聖堂広場(Piazza del Duomo)の西約二〇〇メートルの地点(Piazza Pio XI, 2 20123, Milano)にあり、プリューゲルなどを所蔵する絵画館(Pinacoteca Ambrosiana)と併設している。館名はミラノの守護聖人アンプロジッジョに由来する。



アンプロジアーナ図書館 (2003年11月29日)

『ウルバーノ・モンテ年代記』の日本関係記事のなかでは、八八丁表から九〇丁表にかけての、天正遣欧使節の少年四名と、彼らを引率したディエゴ・デ・メスキータの肖像画が著名である。たとえば、八九丁裏の中浦ジュリアン像は、松田毅一『天正遣欧使節』(講談社、一九九九)の表紙に使用されている。近年、ローマ教皇グレゴリオ三世の家系に連なるボンコンパーニ家が、メスキータならびに伊東マシヨの肖像画を所蔵していることが確認され、長崎歴史文化博物館がそれを購入するまで、印刷物を除く彼らの唯一の肖像とされていた⁽¹⁾。その肖像画の知名度に比して、同書にどのような文章が書かれ、どのように日本が紹介されているのかについては、日伊を通じてほとんど注意が払われてこなかった。東京大学史料編纂所編『大日本史料』第一一編別巻之一(二)(東京大学、一九五九(六二))⁽²⁾以下、『大日本史料』ほか関係文献にも、原文、邦訳は掲載されていない⁽³⁾。同書の一五八五年七月二五日条(六四丁表から九一丁裏)には、じつに二八丁にわたる関係記事が存在し、それらは七月二五日から二七日までミラノに滞在した使節一行から聴取した情報と考えられ、質量ともに看過されるべきではない内容である。年代記の日付から、右三日の滞在期間のうち、到着直後の二五日にはすでに聴取されたものと考えられる。

訳者は二〇〇三年一月三〇日に原本調査をし、当該部分の複写を入手しているが、その後関連部分の写真、要旨および論考はミラノ商工会議所『ミラノと日本の出逢い』(Camera di Commercio, Anno 1585, *Milano vista dei giapponesi* (Milano: Camera di Commercio, 1990))として出版されていることを知るに至った。同書における要旨の紹介は詳細であるが、翻刻ではない。また、古くはGutierrez, Beniamino, La

Prima Ambasciata Giapponese in Italia (Milano: Litografico Carlo Perago, 1938)があるが、本文の忠実な翻刻ではなく、簡潔な文体へ改めて採録されている。以下では翻刻における該当箇所をイタリック体で表示した上で、右論文における対応箇所を「[Gutierrez]pp.」と示した。

したがって、本稿においては、ウルバーノ・モンテ年代記の日本関係部分の翻刻ならびに邦訳をおこなった。とりわけ邦訳に際しては細心の注意を努めてはいるものの、訳者の経験不足により至らぬ点がある可能性を否定しえない。作業にあたっては、原本調査時に入手した複写ならびに、右刊本を併用した。また、全体を分割するために、内容に応じて各項目名を付している。この分割を区切りとして、邦訳と該当部の翻刻を交互に並べている。これらの各項目名は、原書では本文左脇に注記されているものを、内容に応じて適宜本文中に挿入したものである。したがって、文脈により原史料の位置とは異なる箇所に挿入している項目もある上、項目が変わる場所における改行は、必ずしも原書に存在するものではない。また、各項目内における改行は、原書にしたがって施している。単語については、現代語と綴りが異なるものも原文の綴りにしたがいが翻刻しているが、大文字小文字については適宜修正を加えている。煩瑣を避けるため、丁数は翻刻のみに記している。括弧は原文中にあるものは()、訳者において付したものは〔 〕で記載した。

以上の原則により、今回は最初から七三丁裏の途中までを掲載する。

『ウルバーノ・モンテ年代記』一五八五年七月二五日条

七月二五日、日本人たちがミラノへ来る⁽⁴⁾

まさにポッローメオの記憶により彩られたこの記念日は、しかしながらふたたび二人の日本国王大使〔天正遣欧使節〕たちのミラノ来訪により彩られることとなり、彼らは、行政官会議、学者たち、騎士たち、すなわちすべての貴族と、居合わせた人々を統べる者による大いなる歓迎とともに、男爵としての待遇と名誉をもって受け入れられた。国王大使たちは、滑らかで深紅〔の服〕と、船員風の靴下、金で飾られた錦の半長靴そして色とりどりの帽子を着用し、ローマ門から入城した。それらはボルゴを不意打ちした夕立ちのためで、公子たち〔使節一行〕の手により準備された。「彼らは」進むように促され、敬意を表して右側へ招かれた。主席の人物は、二〇歳でドン・マンシヨと呼ばれ、総督に脇侍した。次席の人物は一八歳でドン・ミケーレと呼ばれ、大書記官に脇侍した。もうふたりの日本人男爵がいた。ひとりは一七歳でドン・マルティノと呼ばれ上院議長に脇侍し、他はほぼ同年齢でドン・ジュリアーノと呼ばれ、判事長と同行した。彼らには、日本、ポルトガル、その他の〔地域の〕彼らの会のたくさんの他の重要人物、とりわけメスキータ司祭とよばれるイエズス会司祭がしたがっていた。「彼らの」肖像画は、単純八行詩とともにこの先の適当な箇所へ配置されている。しかしながら、他の事柄を述べる前に、読者により満足していただくために、はるかなあなたの国から彼らが来訪したことを、旅の概略、そして彼らの王国を出発してからの出来事とともに述べ、彼らの国の習慣や性格の一部を、グレゴリオ二三世教皇聖下に捧げた従順さ、教皇聖下と枢機卿会議へ対して訳者を通して述べたこと、そしてそのほかの特筆すべきことどもにも語ることをしたい。

25 luglio venuta delli s.ri Giaponesi a Milano

c.64 r

l'istesso giorno memorabile per la rinovata memoria del Borromeo, ma ancora per la venuta a Milano de i doi Ambasciatori de i Re del Giappone quali con grande accoglienze dal Governatore dal senato da magistrati da Dottori da canagieri et in somma da Tutti i nobili et popolo incontrati furono ricevuti con tante careze et honori quanto a Tali baroni et Impasciatori Regii si apparteneva [aparteneva], Intorno da Porta Romana vestiti di raso cremesino con calze [calze] alla marinara, ferioi di Tabi, guarmiti d'oro, e capelli di meschia per una repentina pioggia che li sopragionse nel borgo, furono racettati et dattali la mano da principali s.ri facendosi andare et cedendoli la mano destra per honorari, Il primo di età de anni vinti chiamato Don Mancio, aparo al Governatore, il secondo de dieceotto anni chiamato Don Michele aparo al Gran cancelliero, vi erano poi doi baroni Giaponesi l'uno de anni 17, chiamato Don Martino aparo al Presidente del senato, et l'altro quasi della medema età nominato Don Giuliano acompagnato dal presidente del magistrato, fra questi seguivano molti altri nobili della lor compagnia giaponesi portughesi et altri particolarmente il lor padre della comp a di Giesu nominato Padre Mesquita. Li cui retratti con una semplice ottava si mettono piu

c.64 v

avanti In luogo à ciò opportuno, ma avanti che più altra ne ragioni voglio per maggior contento de lettori porre la causa di questa loro venuta da paesi si lontani, con una breve dichiarazione del loro viaggio, quanto li sia occorso doppo la partita da i Regni loro, et ancora narrare parte de i costumi et qualita de suoi paesi, con l'obbedienza che hanno prestata alla santità di

Papa Gregorio decimotero et quanto sia da loro per mezzo di uno suo oratore detto a sua sta et concistoro. et altre cose notabile. [Gutierrez]pp.48-9]

日本島がどこにあるか、またその他この国についての記述

日本はイタリアの三倍もある大きな国で、「一五」四五年に他の東インド地域を航行していたポルトガル商人たちによって発見された。それはわれわれの半球に位置し、東地中海とアルプスとの間〔の方角〕だと思われる。はるか北極圈五五度と赤道の中間にあたるほぼ三五度であり、ジブラルタル海峡や、サルデーニヤ、シチリアといった地中海の島々と同じ緯度である。日本列島はサルデーニヤやシチリアと同じ日差しや気候で、ギリシアの海やいわゆる古代ペロポネソスのモレアの半島とも同じ気候や日差しである。その経度はおおよそ二〇二度であり、しかし球の上ではイギリスやフランスそして地中海にある大小の島と対置する位置にある。〔日本は〕アジア最果ての地域を洗う海中にあり、そこにはシナ大王国がある。そこへは八〇レグア未満の距離があり、船では二四〇マイルである。〔三つの大きな州にわかれており、それらはシモ〔下〕、メアコ〔都〕、シコ〔四国?〕であり、また〔以上、補筆挿入部分〕六三の領主に分かれ、住民は名譽と統治を切望している。また彼らのうちの有力者たちは、国を守り、拡大するために戦争を繰り返している。島は金銀に恵まれ、「それらは島を」富ませている。油とワインを欠いており、ブドウやオリーブは知られていない。しかしながら、この人々には火を灯す油を作るためのからしの種〔荏胡麻⁶〕が用いられている。それはまた食事の薬味としても使われている。これを用いて、熱い、もしくははなま暖かい

真水を飲む⁷。彼らが大麦を大量に有するとはいえ、それはフランマン人やドイツ人がビールにおいて慣例化しているように、彼らの渴きを癒す。彼らはミツバチを飼わない。それは養蜂業が発達していないからで、それゆえに、蜂蜜や蜜蝋はない。ところが、彼らが鉄器により傷をつけ、搔かれたある種の木〔漆〕は、樹液を外部にしたらせ、一般に蜜蝋の不足を補う役割を果たしている。彼らはとても上品に食べる。指の間にうまく固定された細い棒を取り、食べ物をつかみ、食物を取る。パンを他の手でつまむことは、分別のある礼儀作法としてはしないようであり、控えめかつ程ほどに食する。それは多くこのことのため、また美食や健全な気候のため、日本人は丈夫に健康に長生きし、とても快適に一〇〇歳以上に達する。ゆえにこの健康的な国において、医者はずっと利益を得ていない。それどころか本来恒久的に島であり、外部とは隔絶されてきたため、住民たちは病んだ時、単純な知識と助けで治療し、ひとりの医者もなしに、その悪運がとりついた全身にある苦しみを癒しているようである。それらについては、われわれにとっても特別なものをもっている。しかし、気高く武装し乗馬するように、素晴らしいことに、医学を除いて、文学や教養を深めることを楽しんでる。彼らの間ではそれについて特別な地位はない。〔彼らが〕信じる大きな価値のため、虚偽の宗教や信仰については特殊ですぐれた地位がある。そのため、その他のすべてを蔑んでいる。これらの王国は富裕で豪華な宗教僧院に満ちており、それはボンジ〔坊主たち〕とよばれ、大方貴族たちであるが、それゆえ、彼らの迷信や虚偽の宗教の真理を追究するため、真理へたどり着くことなく、無意味な議論を競わせている。その議論とは、お互いをやりこめあい、七変化を遂げ、そのなかで最良のものを評価するというものである。

彼らは、われわれのように本を出版をする。それどころか、われわれよりも以前に、出版〔の技術〕を知っていた。そうして、彼らはかろうじて自らの起源を記憶している。さて、「彼らは」二通りの方法で書き、印刷している。ひとつは同じことを文字と絵で、それはむしろからの象形文字の使用であるが、かつての古代エジプト人のように意見や感情を表現することに成功している。今日のローマではこのような文字と絵で彫刻されたピラミッドは存在しないし、現在、古代の習慣について、記憶を呼び起こすことはできない。もうひとつの書いて印刷する方法は、われわれがしているように、とても上品に文字を用いるが、それは紙に対して横書きではない。しかし、極めて繊細で上質な繊維でつくられた紙の端から端までは長く、とても弱く、やわらかく、薄く、その上に書くためにペン先を止めることは不可能で印刷プレスする作業はとてつもないように、われわれには思われる。

Descrittione de l'isole del Giappone dove sia et altre cose de quei paesi

Il Giappone e un paese grande come tre volte l'Italia, scoperto quarantacinque anni sono da mercanti Portoghesi navigando oltra l'India orientale, situata nel nostro emisfero [emisfero] Tra levante et Tramontana, hà [ha] il suo mezo dal polo Artico lontano gradi 55, et da l'equatore cioè dal circolo equinoziale gradi 35 in circa, con fasi di paralelo come il stretto di gibliltarra con la sardigna con la sicilia Isole nel mare mediterraneo cioè i giapponesi hanno un medemo sole e le medeme stagioni che essi sardi et siciliani et cosi la stagione et sole della penisola detta morea che giace nel mare greco gia detta Peloponesso, da gl'antichi, Il suo meridiano è circa gradi 202, ma per Diametro è contraposta all'Ingalterra

alla Francia et alle Isole Maiorica et minorica poste nel mare mediterraneo
c.65 r

Giace nel mare, che bagna l'ultima parte de l'Asia, che è il gran Regno della china, o sina : onde è distante per il manco ottanta leghe che sono ducento quaranta miglia di Traghetto, E diviso è divisa in Tre principle provintie cioè ximo Meaco e xico, et in in sessantatre signorie, habitata da gente soverchiamente desiderosa di honore, [Gutierrez|p.50] et di regnare, La onde quei principi fra di loro sono in continue guerre per conservare et accrescere i stati. Abonda l'isola d'oro et d'argento che la arricchisse [arrichisce], manca d'oglio et di vino, poi che ne vite ne oliva vi si conosce, ma per queste a questa gente serve la semente della senapa, che le fa oglio per ardere, et si usa in oltre per condimento de i cibi. per questo bevono aqua pura calda o tepida, benchè ancora d'orgio, di cui hanno copia grande, si satiano [saziano] come acostumano Fiamenghi et Tedeschi delle cervose. Non hanno ape, che non vi sono ancor gionti, et pero mancano di mele et di cera, ma alcuni arbori da loro ponti et Incisi col ferro, le stillano fuori liquor Tale, che comunemente supplisse [suplisse] al mancamento delle cere, Mangiano molto delicatamente, prendendo con alcuni stecchi che si stringono fra le dita artificiosamente, qual si voglia cibo : parendole meno che ragionevole creanza toccar con mano altra
c.65 v.

che il pane, et mangiano poi sobria, et moderatamente. onde tanto per questo quanto per la bonta et salubria de l'aere, i Giaponesi *longamente*

vivono robusti et sani et arrivano alla età de cento e piu anni, assai comodamente, per tanto nulla vi guadagnano in quei sanissimi paesi i medici, anzi [anzi] pare, che natura eternamente da l'isola se gli habia banditi, et confinati altrove, perche gli habitatori quando s'infermano con la malattia et aiuto de simplici si curano et si sanano senza che medico veruno le cationo in corpo tutte quelle mal venture, che tengono i nostri spetiali, [[Gutierrez]p.51] ma come armegiano et cavalcano nobilmente, cosi anche se diletano maravigliosamente del studio delle lettere, et cognitione de l'arti liberali dalla medicina in fuori, che fra di loro non ha luogo alcuno, [[Gutierrez]p. 51] v'ha ben luogo principale la religione et culto dei falsi dei a che per stima grande che ne fanno, pospongono tutte l'altre cose per il che quei Regni sono pieni de ricchi et sontuosi monasterii de religiosi che chiamano Bonzi, la magior parte persone principali, et perciò per cagione d'investigare la verita nelle loro superstizioni, et falsa religione garreggiano senza trovarla mai tra di loro, con vanissime dispute

c.66 r
che gli tragono d'una in altra opinione, variando in diverse sette, stimando ciascuno la sua migliore, stampano libri come noi, anzi [anzi] prima di noi conobbero le stampe, perche appena della origine di quelle si ricordano, ma et scrivono et stampano in due maniere l'una con figure e immagini delle cose stesse, che é l'uso de i Gieroglyphici [[Gutierrez]pp.51-2] come di gia solevano esprimere i concetti et affetti loro gli antichi Eggitii, ne oggidì in Roma mancano delle piramidi scolpiti di questi caratteri, et immagini, che de si antico costume ci puomo ogn'hora rinovare la memoria. L'al-

tra maniera del scrivere et stampare e comune con lettere al modo nostro, molto politamente, è non per traverso delle carte, ma per lungo da l'uncapo all'altro dei fogli che fanno alle volte di cannuce sottilissime a manaviglia, onde pare a noi impossibile che sopra cosa cosi tenue, molte et sottile vi si possa fermare la punta della penna per scrivere sopra, non che, non che sforzate sopra le stampe per stamparle. [[Gutierrez]p.52]

日本のイエズス会司祭たちは、その人々のなかで、キリスト教信仰について多くの成果を挙げる [「ことごとく」]

現在、この大きく、豊か、高貴で、健康的、迷信的かつ人の多い島で、一五四九年までに、イエズス会を創設したはじめの集団のひとりであり、彼らのなかではじめて他の数人を自身とともに導いて東インドへ行った、フランシスコ・ザビエル司祭は、そこで福音書を説き、相当数のキリスト教徒を獲得した。ここからの出発と死ののち、同会の同僚たちが引き継ぎ、彼らは、補助のため彼らのもとにインドや、ポルトガル、イタリアその他の国を含むヨーロッパから遣わされた助手とともに日本に留まっている。彼らは、偽りの宗教的手段による敵対的集団や、彼らを極度に迫害する多くの有力者たちによる敵対行為を妨害していない。主なる神はこれらの偶像崇拜者の改宗について、彼らを本当にお助けになった。そして三〇年の間に、この国ではおよそ二〇〇の教会が建てられ、おおくの改宗者を得、現在では二〇万人以上のキリシタンがおり、そのなかにはわれわれでいうイタリアの公爵や大勢力の王のような大有力者もいる。

Padri Gesuiti nel Giappone fanno grande profitto nella fede cristiana tra quei populi

Hora in questa isola si grande, ricca, nobile, sana, superstiziosa, et popo-
lata, [(Gutierrez]p. 52] entro l'anno 1549, il padre Francesco xavier uno
de primi compagni del fondatore della compagnia di Giesu, et il primo
che di loro ando all'Indie orientali menandovi seco alcuni altri, dove
predicando l'evangelio, fece parecchi cristiani, doppo
c.66 v

la cui partenza et morte, seguirono l'impresa quei dela medesima com-
pagnia, che erano rimasti nel giapone, et con l'aiuto de altri mandati loro
in sussidio, et d'India et d'Europa, cosi Portughesi come Italiani, et d'al-
tre nationi, non ostante Il contrasto fatto loro dal nemico commune per
mezo de quei falsi religiosi, et de molti principi che li perseguitavano, il
signore Iddio si è si fattamente servito di loro nella conversione de quelli
idolatri, che nel spatio de trentanni in quei paesi si sono edificate circa
dagento chiese, et convertiti tanti che al presente si trovano più di ducento
mila christiani tra quali vi sono principi grandi come li nostri Duchii de
Italia et Regi di magior potenza, [(Gutierrez]p. 52]

多くの日本人有力者のキリシタン信仰への改宗

今日、これらの改宗した領主たちは、真実のカトリックのキリスト
教徒として、全霊をもって、地上におけるキリストの代理である教皇
へ大使たちを派遣する（自らその任を果たすことができないため）こ
とを近年決定した。彼ら〔大使ら〕は彼ら〔領主ら〕の名により、各
キリスト教徒の義務である服従を表明し、司祭と教皇、そしてその他
の人々のためにそれを認め、その機会に彼らの魂の救いについての恵
みを求めていたのであろう。彼らは司祭たちの説教を聞き、ついには

この国の貴族がヨーロッパをみることで、キリスト教の偉大さや、わ
れわれの信仰は有力者にも大国王の間にも広がっていること、その他
かの地では信じられていない多くの事を認識したのであろう。

Conversione de molti principi Giaponesi alla fede cristiana

Hora questi signori convertiti, come veri et catholici cristiani [(Gutier-
rez]p. 53], di tutto cuore si risolsero gli anni passati (non potendo essi
farlo in persona) di mandare al Papa vicario di cristo In Terra. Ambas-
ciatori che a nome loro gli rendessero quella obediienza, che li deve ogni
cristiano, et a riconoscerlo per padre, et per pastore universale, et partico-
lare, et che con questa occasione chiedessero quelle gratie che fossero con-
cernenti alla salute delle
c.67 r

anime loro. [(Gutierrez]p.53] Furmo anche a ciò molto esortati dalli
medemi padri, a fine che alcuni nobili di quel paese veggendo l'Europa,
conoscesero la grandezza della cristianità et che la nostra fede era anche
fra principi, et Regi grandi, cosa non creduta in quelle parti da molti,

ボロンコ〔豊後〕王ドン・フランチェスコ〔大友義鎮〕、有馬王ドン・

プロタジオ〔有馬晴信〕、大村の王子ドン・バルトラメオ〔大村純
忠〕は大使を派遣し、⁸⁾ 教皇に従属する

したがって、一五八二年、三名の領主たちはこのわたしと語り合っ
ている大使を派遣した。豊後王ドン・フランチェスコ、有馬王ドン・
プロタジオ、大村王子ドン・ベルトロメオ。第一〔の領主。すなわち
大友義鎮〕はキリスト教徒となつて程ないが、つねに救済の布教を助
け、彼の王国において日本へ赴いたイエズス会の最初の司祭たちを受

け入れた。第二〔の領主。有馬晴信〕もまた新しいキリスト教徒であった。第三〔の領主。大村純忠〕は、洗礼を受けた最初の有力領主であり、それは一五六三年のことであった。第一〔の領主〕は他よりも強力であり、これら六三国のうち七国の主である。この権力〔の大きさ〕は、このことから推測することができる。すわなち、一五七九年におこなわれた戦いで戦場に送った兵士は四万人だったといわれた。

Don Francesco Re di bongo

Don Protasio Re d'Arima

Don Bartolameo principe d'Omura mandano imbasciatori et si somettono al papa.

L'anno dunque 1582 tre signori spedirno questa legatione di cui parlamo. Don Francesco Re di Bongo ; Don Protasio Re d'Arima ; et Don Bertolomeo Prencipe d'Omura. Il primo non ha molti anni che è cristiano, ma favori sempre la predicatione de l'evangelio, et ricevè nel suo Regno li primi padri della compagnia di Giesu che nel Giappone andarono. Il secondo era anche cristiano di fresco. Il terzo fu il primo barone d'importanza che si batezasse et ciò fu l'anno 1563, Il primo è piu potente degli altri, essendo padrone de sette di questi, 63, stati, la cui potenza si può racorre da questo che in una guerra che fece l'anno 1579 haveva quarantanilla combatenti in campo.

ド・マンシヨ〔伊東マンシヨ〕ド・ミケール〔千々石ミケール〕

ド・マルティノ〔原マルチノ〕ド・ジュリアーノ〔中浦ジュリアン〕

「日本の王から教皇への大使たち」⁶⁷⁾

フランチェスコ王は、彼の姉妹とフィウシガ〔日向〕王との息子を、

もっとも名譽ある大使とすべく派遣しようと考えていた。しかし、その青年は遠くにおり、またその地域におけるイエズス会巡察師、イタリア人アレッサンドロ・ヴァリニャーノ司祭は、彼らを同伴することになっていたが、航海にふさわしい時機を失わないよう出発を急いでいたために、二〇歳になる、彼の義弟である先述の日向王の孫にあたる、ドン・マンシヨを派遣することを決心した。彼が主席である。また、有馬王とドン・ベルトラメオ王子は、一方の従兄弟であり、他方の甥〔孫?〕であるドン・ミケールを派遣した。彼が次席の人物であり、一八歳の大使である。彼らはさらに二名の有力領主の息子を引率した。ひとりはドン・マルティノと名付けられ、日向王国の出身〔一般には波佐見の出身だといわれる〕で、年齢はおおよそ一七歳。もうひとりはドン・ジュリアーノで、フィジエン〔肥前〕王国の出身で、年齢はおおよそ同じ。〔このふたりは〕大使たちの同伴者として、またローマ教会およびすべてのキリスト教徒の宗教を見るために出発する。これらふたりの公子とふたりの貴族たちは、美しい召使いの一団とともに、先述の巡察師司祭や同会の他の人々に伴われ、一五八二年初頭頃に出発した。

Don Mancio, Don Michele, Don Martino, Don Giuliano, Imbasciatori deli Re del Giappone al papa

Haveva in animo il Re Francesco di mandare uno figliolo di sua sorella, e del Re di Fungua per fare la legatione piu honorata [[Gutierrez]p. 53] ma perche il giovane era lontano, et il Padre Alessandro vaghiano Italiano, visitatore della compagnia di Giesu in quelle parti che doveva accompagnari affrettava la partenza per

c.67 v

non perder il tempo atto a navigare, si risolvè di mandare Don Mancio nipote del sudetto Re di Fingua suo cognato giovane de anni vinti, et questo è il principale, Il Re d'Arima poi, et il prencipe don Bertolameo mandorno Don Michele *consobrinio* [(Gutierrez]p. 53] de l'uno, et nipote de l'altro, e questo è il secondo personagio et imbasciatore de eta [eta] de diciotto anni. Si acompagnorno con loro dui altri figlioli de cavaglieri molto principali, uno nominato Don Martino del Regno di Fingua de anni circa diecesette. L'altro Don Giuliano del Regno de Figen della medesima età in circa parte per far corte agli ambasciatori, parte per vedere la religione della chiesa Romana, e di tutta la christianità. [(Gutierrez]pp. 53-4] Si partirno quei duo prencipi et due signori con bona comitiva de servitori, in compagnia del sopradetto padre visitadore et de altri della medesima compagnia circa il principio de l'anno 1582.

インドのゴアにおける日本人貴族たち

一五八三年、ポルトガル王室に従属したインドの首都である、ゴアに到着し、そこで休息した。

Sri Giaponesi a Goa in India

arrivaron l'anno 1583 à Goa città principale dell'India sottoposta alla corona di Portogallo : dove riposatisi,

メスキータ司祭が、日本人貴族たちを日本からローマへ導く

彼らは何艘かのポルトガル船で、メスキータ司祭というポルトガル人イエズス会司祭を伴ってヨーロッパへ来た。彼は日本語ができ、聴罪司祭として「伴われ」、またポルトガル語を解する日本人の同会の

別人が、彼らと日本から来た。なぜなら巡察師はインド管区長に留まらなかつたからである。

Padre Mesquita guida de s.ri Giaponesi dal Giappone a Roma

con le navi Portoghesi se ne vennero in Europa havendo in compagnia loro un padre Giesuita portughese chiamato il Padre Mesquita, che have la lingua Giaponese venuto con essi loro dal Giappone, come confessore, maestro, c.68 r et un altro della medesima compagnia di nazione Giaponese che have la lingua Portughese, perche il visitatore restò nell'India Provintiale.

一五八四年、ポルトガルにおける日本人貴族たち⁽¹⁰⁾

彼らは一五八四年にポルトガルへ着き、そこでいとも清らかなその国の統治者、オーストリア枢機卿およびその王国の筆頭領主であるブラガンサ公爵からの、無数の寵愛と名誉とともに受け入れられた。彼ら〔ブラガンサ公爵〕は、彼らに榮譽をもたらすため、彼の長男に日本風の衣服を着させた。そうすることで彼らを仲間にしたかったのだ。旅をより迅速にするために、そこへ家族の大部分を残して、国王フィリップ〔フェリペ二世〕の手に接吻をするべくマドリッドへ移動した。それ〔接吻〕は同様に暖かく認められた。彼らの前では、「フェリペは」快適な移動に資するよう、彼ら〔使節一行〕に彼の所有するうちの二台の馬車を与えたが、彼らが手に接吻をすることには同意せず、抱擁とした。また、双方の王子による抱擁をも求めた。そして彼らにエスコリアル〔修道院〕、休息の場所、かのアルマリアのマエスタの意匠、宝石や騎兵隊といった、すべての最も美しいものをみせ、王子

の宣誓式に同席させた。その儀式に際しては、右側に最高の席を彼らへ与え、さらに二人の貴族をそばにつけ、宣誓式で握手をするためにくる貴人ひとりひとりの名前を、「一行に」告げる役をさせた。出発に際しては贈り物として一台の四輪馬車と一台の高級馬車を与え、それで進み、乗船するように命じた。「一行は」国王陛下から、アリカントの方角へ進むことを許可され、どこを通過しても最大の榮譽と寵愛を受けては、たくさんの行列とともに高貴な町々を出、遊戯や宴を開いて楽しんだ。アリカントでは、国王陛下の命により、航海の全行程のために、あらゆる点で準備され、きわめて大量の食料を積載した船に乗り、イタリアへ向かった。彼らはアリカントを出発し、嵐にあつてマイオリカ〔マヨルカ〕に寄る必要が生じた。そこへ下船してミサを開き、とても爽快となり、以来順調に航海した。

S'ri Giaponesi in portogallo lanno 1584

Arrivorno in Portogallo, il 1584 dove furno con infinite carezze, et honori riceuti, e dal serenissimo cardinal' d'Austria Governatore di quello stato, et dal Duca di Braganza primo barone di quel Regno, il quale per honorari fece vestire il suo primogenito con vestimenti fatti alla Giapponese, et con quella volse che facesse loro compagnia, [[Gutierrez]p.54] Quivi lasciata magior parte della famiglia per esser piu spediti nel viaggio, si trasferirno a Madrid per bacciar la mano al Re Filippo, da mi parimente furno amovovollissimamente raccolti, [[Gutierrez]p.54] percioche prima loro diede dui cochi de suoi de quali si servissero in andare a spasso, non consenti che le basciasero la mano, ma li abbraccio, et volse ancora che essi abbracciassero ambedue le Infante, [[Gutierrez]p.54] poi fece loro mostrare tutte le cose piu belle, come lo escuriale, luogo di recreatione,

deliciosissimo di quella M.ta l'Armaria, le gioie, la cavallaria, et li fece esser presenti al giuramento del pricipe : in qual solennità diede loro il primo luogo a man dritta, ordinando che con essi stessero doi signori principali che li dessero a conoscere destintamente tutti li signori, che davano de mano

c.68 v
il giuramento. Nella partenza dono loro una carrozza et un cocchio co i quali s'andassero ad imbarcare. Licentiatasi da la M.ta del Re presero la volta di Alicante, et dovunque passavano, ricevevano grandiss.o honore et carezze, uscendo dalle cita di la nobilità con molta pompa, et facendo giochi et feste per allegranti. In Alicante simbarcorno per Italia in una nave apparecchiata di tutto ponto et provvista di vettovaglie molto abundantemente, per tutta la navigazione, di ordine di sua Maestà. [[Gutierrez] pp.54-5] Partiti da Alicante per fortuna furno forzati a toccar Maiorica, dove smontarono a udir messa et hebbero di molti rinfrescamenti ; di allora in poi navigarono prosperamente,

イタリアでの日本貴族^[1]

そして二万マイルに勝る航海の果てに、三月一日、トスカーナの港であるリヴォルノへ無事到着した。そこからトスカーナ大公が連れてくるよう命じたため、ピサへ行き、「大公は」そこで彼らと出会う。「彼らは」榮譽、奉仕と寵愛を受けた。大公夫人も官人や侍女たちとともに面会し、四人全員と抱擁を交わした。「一行が」出発した時、大公は彼らをフィオレンツァ〔フィレンツェ〕へ同伴し、そこで日本貴族たちは大公へ贈り物を差し上げた。

〔贈り物は〕ひとつの光沢のある黒できわめて芳香を放つ木材でできたインク壺、あるものたちは彼の国々で生まれた象を殺す動物である、犀の角でできたものを欲しがる。二片の樹皮でできた紙片、うち一片は彼らの言語でいとも聖なる神と栄光ある処女なる母マリアの名が記されている。二片のきわめて繊細な繊維でできた紙片。素晴らしくと繊細さゆえ、ペンやインクでその上に書くことができたと考えることができない。絹をつむぎ出す、人の頭ほどにも大きいつぼみ〔繭〕と、その国の樹上に「つぼみ」を組み立て作る幼虫たち。そして一着の日本風の衣服。

〔一行は〕大司教と大公の大いなる寵愛を受けたフィオレンツァを出発した時、「トスカーナ大公国の」全国土にわたって彩を添え、よく応接されるべく、人々に伴われた。三月一四日にシエナへ到着した。〔シエナでは〕その町の貴族や兵士たちと、城門の外半マイルの地点では大司教と出会い、その出会いの場では馬から降り、その日のうちに彼〔大司教〕とともに高級馬車でかのスフォルツァ家の領主の館へ入った。彼らのイエズス会のコレジオにおける習慣に従って、彼らを宿泊させようとしたことであった。

大聖堂へと導かれた時、大司教により、音楽とともに受け入れられ〔大司教は〕彼らに聖ジョヴァンネ〔二〕・バッティスタの腕を、その他の聖遺物とともにみせた。彼らは恭しく接吻した。館に戻ってからは、イエズス会司祭の教会を訪問することを希望し、そこでも同様に聖遺物を見学した。この時は、彼らが見せた祈祷に、一同はとても感嘆させられた。翌日はイエズス会のミサを聞き、彼らと昼食とともにした。そして彼らの目的地である、ローマの方角へ進んだ。〔一行が〕近くまで到着していたことを知った教皇聖下は、ふたつの急便を

送り、到着を急がせた。それは土曜日前にローマへ到着させ、土曜の公開枢機卿会議と日曜の礼拝堂〔でのミサ〕、さらに聖マリアのお告げの祝日にあたる月曜日には、〔自身に伴わせて〕ミネルヴァ教会へも出向かわせるためだった。

S.ri Giaponesi in Italia

et a salvamento arrivarono a Livorno che è porto di Toscana il primo di marzo *dappo la navigazione di più di vintimila miglia*, [[Gutierrez]p. 55] D'Inci andorno a Pisa mandati a levare dal Gran duca di Toscana ch'ivi si trovava dove furno molto honorati serviti et accarezzati, trovandosi la gran duchessa *con la corte et sue damigelle da la quale furno tutti quatro abbracciati*, [[Gutierrez]p. 55] quando partimo il gran Duca li acompagno a Fiorenza dove lasiorno li s.ri Giaponesi in dono al Gran Duca,

Un calamaio di un legno nero rilucente et molto odorifero se bene alcuni vogliono che sia fatto del corno del Rinocerote

c.69 r

animale che ucide l'elefante nativo di quei paesi Dui pezzi di carta fatta di corteccia di albero sopra uno de quali e scritto nella lor lingua il nome santissimo di Dio et della gloriosa vergine madre Maria Doi fogli di carta fatti d'una canna molto sottili, [[Gutierrez]p. 55] sopra la quale non si puo pensare con qual penna o inchiostro vi possano scrivere per la matrigliosa sua sottigliezza un boccio di quelli da quali si tira fuori la seta, *grosso come la testa de un homo, et quei vermi che li contessono li fanno sopra li arbori in quei paesi et uno vestimento a la Giapowese*, [[Gutierrez] p. 55]

Partendosi da Fiorenza dove furmo molto piu acarezati dal arcivescovo et dal Gran Duca, furmo accompagnati da un gentilhuomo con ordine suo acio fossero spesati et ben trattati per tutto il suo stato. Gionsero a siena alli 14 di marzo, furmo incontrati dalla nobilita et homini d'arme di quella città, et anche da l'Arcivescovo fuori della porta mezo miglio, alla cui presenza smontorno da cavallo, et entrarono con lui in cocchio all'oggiorno in pallazzo del Governatore da quello sforzati, havendo loro animo di alloggiare secondo il suo solito nel collegio dela compagnia di Giesu. condotti al Duomo furono rrecuti dal Arcivescovo con musica, fu loro mostrato il braccio di s'io Giovanni Battista con altre reliquie; che riverentente baciaron, nel ritornare a palazzo volsero visitare

c.69 v

la chiesa de Padri Giesuiti ove parimente furmo loro mostrate le reliquie, et in questo atto facevano molto maravigliare tutti per la devotione che mostravano. Il giorno seguente udirno messa da Giesuiti co i quali restorno a disnare, poi s'incamminorno verso Roma dove era Il suo intento, et havendo sua santita inteso, che si apressavano, con due poste sollecito la venuta, affine che si trovassero in Roma prima del sabbato, per dar loro il sabbato medesimo concistoro publico, et la Domenica capella, et haverli in compagnia il lunedì che era il giorno della Nontata nello andare alla minerva.

ローマにおける日本貴族⁽²¹⁾

彼らが到着する二日前、教皇聖下は人と、彼らを出迎えるため俊敏な馬、そして馬車を送った。彼らは多くの同伴者とともに、金曜日の

日暮れ時にローマへ入った。それは三月二二日であった。そして教皇聖下のお許しにより、イエズス会の館へ直行し、そこで馬を降りた。彼の貴族たちの希望により、「イエズス会」総会長司祭に対する思いやりで認められたものであった。夜であったにもかかわらず、多くの人々が一気にその広場へ押しかけ、つつがなく下車できまよう、「一行の馬車を」城門へ寄せるため、馬車の道をあけさせる俊敏な騎兵が足りないほどであった。

城門の上には、彼の四人の助司祭ととても多数の司祭に伴われ、イエズス会総会長司祭がいた。「一行は」たいまつ炎に迎えられ、会見に際して総会長におじぎと、平伏をした。それからあとに続く多くの群集とともに、教会へ導かれた。

s.ri Giaponesi a Roma

Due giorni prima che arrivassero, sua santita mando gente, et cavalli leggeri ad incontrarli, et poi anche carrozze, et con molta compagnia entrarono in Roma il venerdì sera al tramontar del sole, che fu alli 22 di marzo, et andorno dritti a smontare alla casa della compagnia di Giesu per consentimento di sua santita, che per sodisfazione de quei signori haveva cio concesso in gratia al Patre Generale. Concorse in un tratto in quella piazza tanto popolo ancor che notte fosse che non bastavano i cavalli leggeri a far dar luogo alle carrozze che si volevano accostare alla porta acioche potessero comodamente smontare.

Su la porta stava il padre generale con li suoi quatro assistenti, et gran moltitudine d'altri padri, dal

c.70 r

quale furmo amorevolmente a lume di Torchie raccolti, essi all'incontro fe-

cero al padre Generale riverenza ingenocchiandosi sino a terra. Quindi con una gran calca di gente, che si spinse lor dietro condotti furono in chiesa,

日本貴族たちの信仰⁽¹³⁾

そこでは閉ざされた扉の前で、ふたりの聖歌隊による至高の音楽のなか、ドイツ人コレジオの神学生たちにより、テ・デウム・ラウドムスが歌われた。彼の貴族たちは、四つの座布団の上で、頭をあちこちに向けることなく、壁にもたれかかることなく、よき祈りとともにいた。彼らのうちひとりには、風邪をひいていて、彼らはすべての彼の司祭たちや他の人々を驚かせ、感嘆させ、彼ら〔司祭や人々〕は慰めのため、涙をこらえることができなかつた。感謝〔の挨拶〕を終えるとき、彼らは金を施した皮が張られ、友人たちから提供された手作りの絹のベッドで飾られた宿所へ案内された（それは天蓋に包まれたさまざまなベッドがすべて一緒に配置され、彼らがよりよく休めるよう、メスキータ司祭の同室が求められたひと部屋である）。そしてそこで司祭たちは彼らが理解するいくつかの言語によるもてなしを繰り返し、とても多くのイエズス会司祭と多くの馬車が、すべて〔の人々〕によって彼らになされたことを見守るなか、他の楽団が、彼らを祝福した。翌朝の出発時には、スペイン大使が、高級馬車に彼らを乗せ、教皇ジュリオのブドウ畑へ導いた。それはポポロ門の外にあり、大貴族、枢機卿そして大使たちがローマへ行く時の入口として入城する〔場所である〕。ドン・ジュリアーノは風邪をひいており、他の人々とともに馬による厳粛な入城をすることができず、秘密裏に中を隠された大使の高級馬車で教皇聖下の足に接吻をするべくサン・ピエトロ口へ導か

れ、*「」*でも暖かく迎えられた。この青年〔ジュリアン〕は、枢機卿会議をみるために*「」*へ留まる*「」*を願ったが、「教皇は」彼が苦しんでいたことを察し、彼らにしばらくの間宿へ戻るようにといひ、そして、その肉体的健康を気遣ひ、「息子よ、そちを慰め理解するために、*「*われわれは*」*たしかに新たななる枢機卿会議を招集し、恵みとするであらう」と付け足した。

devotione de s.ri Giaponesi

ove a porte chiuse fu cantato il Te Deum laudamus, dalli chierici del collegio Germanico in buonissima musica a due chori, [[Gutierrez]p.56] stando quei signori ingenochiati sopra quatro cossini con tanta dicitone senza volger in qua o in la il capo, e senza ponto apogiarsi etiamdo un di loro che haveva la febre che fecero maravigliare, et intenerino tutti quei padri et altri [[Gutierrez]p.56] che non potevano tenersi di piangere per consolatione. Finito il ringraziamento furono menati nello alloggiamento apparato de corami d'oro, et letti di seta fattisi prestare da amici, (il quale e una sala ove stanno tutti insieme in diversi letti serrati da padiglioni, per magior loro consolatione volendo anche in compagnia il Padre Mesquita,) [[Gutierrez]p.56] et quivi rinnovarono i padri le accoglienze in diverse lingue che intendevano, rallegrandosi essi da l'altra banda in vedere tanta moltitudine de padri Giesuiti et tante carezze che da tutti quelli erano lor fatte. La matina seguente a bon'hora l'Ambasciatore di spagna, gli prese in cocchio et condusse alla vigna di Papa Giulio, che è fuori della

c.70 v

porta del Popolo, onde sogliono far l'entrare li gran signori, cardinali, et

Ambasciatori, quando vanno a Roma. Don Giuliano, che era amato di febre non potendo far l'entrata solenne a cavallo con li altri secretamente nel cocchio de l'ambasciatore coperto fu condotto a san Pietro a basiar il piede a sua sta da cui fu amorevolissimamente ricevuto, et mostrando il giovane di restar quivi per veder il concistoro, sua santità antivedendo che havebbe patito, gli disse che per allora tornasse a casa, et havesse cura della salute corporale soggiogendo queste parole *te enim ut consolamur et audiamus fili tuum tua causa cogemus concistorium cardinalium*, [(Gutierrez]p.56]

ローマおよび枢機卿会議への日本貴族の厳肅なる入場⁽¹⁴⁾

他のものたちは、地面へ達する浮き織り錦のある種のガウンを彼らのしきたりにとおりに着、帽子をかぶり、腰の銀の鞘に収められた新月刀をつけ、サン・ピエトロ〔大聖堂〕へと向かった。さらにはスイス人護衛隊とともに、すべての教皇の騎兵隊が同行していた。赤紫〔の布〕に包まれたラバを伴った枢機卿の一団と、大使たちの家族が続いていた。そのうち最大ものはスペイン大使のものであった。これらの後に、大量の太鼓と管楽器が到来し、そして、すべての宮殿職員とともに教皇侍従官が赤い衣を着て整然と続いていた。教皇付きの聖職者がそれに続き、それらのすぐあとに落馬に備えて六人の馬丁に取り巻かれ、黒いピロードの飾り馬具に包まれて、金の飾りをつけた美しい馬上に、先述のとおりに着飾った公子たち〔マンシヨラ〕が騎乗していた。主席〔マンシヨ〕はふたりの大司教にはさまれて、また他のふたりはそれぞれに二名の司教に導かれていた。その後におびただしい数の騎兵。つまるところ、気高きローマの花であった。〔彼ら

が〕宮殿へと騎乗している間、教皇は、貴族や大使たちを迎えるための、王宮の間における枢機卿会議へ赴いた。そこはどれほど熟練した勤勉な警備が万全であるうが、枢機卿の席がある場所、そして教皇の椅子のある壇さえも（多くは群集であった）人の洪水と化した。このために、枢機卿たちは彼らの席へつくのに大いに苦労した。折り重なるようにいた、司教たちや他の高位聖職者らにつねにふさがれた、席への道が開くまでは、教皇は扉の近くへいったん立ち止まった。

日本の公子たちが城へむけて通り抜ける間、多くの祝砲とともに挨拶を受けた。それは、ローマが砲撃をうけているかのようだった。また少しあとで、教皇陛下は玉座へ達し、腰をかけ、群集のただなかに現れた。枢機卿たちすべてが、彼らをよりよくみられるために背伸びをした。

entrata solenne dei s.ri Giaponesi in Roma et in concistorio

Gli altri vestiti all'usanza loro con certe zinnare di brocatello sino in terra, con capelli in testa, con scimitarre al lato in fodero d'argento s'inviarono verso san Pietro andava in anzi tutta la cavalaria del Papa, con la guarda de suizari; seguivano le corte de cardinali con le mule coperte di pavonazo et anche le famiglie degli ambasciatori, maxime di quel di spagna, dietro a questi veniva gran quantità de tamburri et trombe poi succedevano i camarrieri del Papa con tutti li officiali di palazzo ordinatamente in habito rosso, poi seguivano li chierici di camera, dietro a quali cavalcavano immediatamente i prencipi, vestiti

c.71 r

come è detto sopra belli cavalli coperti di gualdrappe di velluto nero, con guarnimenti d'oro, circondati da sei palafrenieri per caduno, il primo era

preso in mezzo da lui Arcivescovi, gli altri due da Due vescovi per uno, dietro grandissimo numero di cavalcature, et in somma vi era il fiore della nobiltà Romana. Mentre che verso il palazzo cavalcavano sua santità si condusse in concistoro, nella sala Regia, deputata a ricevere principi grandi et Ambasciatori, dove con tutta la diligenza usata dalla guarda che fu estrema, ancora lo spatio de i banchi de Cardinali, et li scellini della sedia Papale (tanta fu la calca) si trovo piena di gente, di modo che li cardinali stentorno assai ad andare a luoghi loro, il Papa si fermò un pezo presso la porta, prima che avesse strata d'andare alla sedia, dove ancora stete sempre soffogato da vescovi et altri prelati che stavano uno sopra l'altro.

In questo mezo li Principi Giaponesi nel passar dal castello furon salutati con tanti iri d'arteglieria, che parve che Roma si sobbissasse, et poco dopo, che sua santità ascese nel suo trono a sedere, comparvero per mezo la calca, et li cardinali tutti s'alzarono in piedi per poter meglio vederli.

教皇の前での日本貴族たちならびに、⁽¹⁵⁾教皇と彼らになにが起きたか

教皇の座への大いなる敬意と謙譲とともに、「彼らは教皇の」足に接吻をして、彼らの王となることの信任をもって、それら「教皇の足」を頭上へ向けて置こうとした。教皇は許さうとしなかったが、親しく抱擁、そして彼らそれぞれに二回ずつの接吻をした。

s.ri Giaponesi avanti [divanti] al Papa e quanto seguisse tra il papa et loro

Gionti con gran riverenza et modestia [[Gutierrez]p.57] alla sedia del Papa li baciarono li piedi, quali si volsero porre sopra il capo, havendo co-

missione di cio fare da suoi Regi : [[Gutierrez]p.57] il Papa non volse consentire, ma

c.71 v

ma gli abbraccio caramente, et baciò ognun di loro un par di volte,

日本貴族到来による枢機卿会議における驚きと歓喜⁽¹⁶⁾

〔教皇は〕皆の魂の活況がいかに大きなものであるかを言うことができなかった。それは驚きであり、歓喜であった。使節一団の人物がとても優雅であり、若く、年少の若者たちであり、三年の旅程を経て、かくも大きな国王たちにより派遣されたことに驚愕したのである。

ヨーロッパからかくも遠い人々が、彼らの親類縁者である若者たち〔使節一行〕を、彼らには外国人であり、貧しく無名の二、三人のイエズス会士へ託したことに感心したのである。また、これらの事実や、とりわけ大使の目的、彼らを派遣した領主たちのキリシタンとしての信心と宗教への親近感を理解し、歓喜に酔いしれた。そこではいちじるしく感動し、歓喜の涙を禁じえなかった。そのうちひとり、多くの枢機卿に囲まれた教皇聖下であった。最初のもてなしが終わる時、教皇聖下は通訳を介して彼らと話し、「使節らは」彼らの領主たちの手紙を差し出した。それらは彼の国々の方法で封をされ、手紙は閉ざされた箱のなかにあった。最初の手紙は日本語であり、それがイタリア語へ訳された。それらは以下のとおりである。

[naraviglia et allegrezza in concistoro per la venuta de s.ri Giaponesi]
non si puo dire come fosse grande il movimento de gli animi de tutti,

parte per naraviglia parte per allegrezza. Si naravagliano di una ambasciaria di persone di tanto conto, di giovani di cosi fresca età, di viaggio di

tre anni, mandata da Regi così grandi : si maravigliano che homini così lontani da Europa havessero fadati giovani tanto loro congiunti, per parentella a doi e tre Gesuiti, stranieri a loro, poveri et sconosciuti, et insieme argomentando da tutti questi effetti ; et in particolare dal fine della legatione, la soda Religione et pietà cristiana de quei principi che gli mandavano, si riempivano di giubilo : onde molti si intenerirno, et furno forzati a lacrimare di allegrezza ; fra i quali uno fu sua santità con molti cardinali. [Gutierrez]p.57] Finite le prime accoglienze sua santità ragionano con esso loro per interpretare un pezzo poi presentarono le lettere de loro Principi, che al modo de quei paesi erano involtate et poste in cassettoni serrati. Furono prima lette in lingua giapponese, poi tradotte in lingua Italiana, et sono le seguenti.

日本の国王たちから教皇への手紙

至高なる教皇グレゴリオ一三世への日本の国王たちからの手紙の原文。先述豊後王フランチェスコの文責。

lettere del Re del Giappone a s.a.sia

c.72r

Esemplare delle lettere mandate al sommo Pontefice Gregorio XIII da i Regi del Giappone,

Mansione o sia soprascritto della Ira di Francesco - Re di Bongio -

豊後王フランチェスコの書簡⁽¹⁸⁾

地上における天の王の代理であり、強力な異教の神からの最初の救いを冀うように祈願するすべての人から崇拜されるに値する、偉大に

していても聖なる教皇へ。すべての敬虔とともに教皇へと書くことをはじめます。天と地の支配者、その帝国は太陽、月そして星々の上に広がっております。そして、私はそれを知らないどころか、闇の奥深くへ沈み込んでおりますが、「あなた様は」明るい光がきらめき、とりわけわれわれの民衆の間に慈悲と彼らの特別な宝物の箱を据えることをお命じになりました。このわれわれの日本の王国へイエズス会司祭たちをお遣わしになってからの早や三十四年をよろこばしく思います。蒔かれている魂を救う神聖なる種子、とりわけ私の胸のある部分のなかの神のお慈悲、それは彼の恵みによりもたらされた多くのほかの近況とともに希望へと導かれ、われわれのものとなりました。それらの功績やあなたがたのいとも聖なる司祭たちおよびキリスト教全体の宗教上の告白に対し、謝意を申し上げます。私はあなたがたのお許しを得るために告白します。もし大きな戦い、年齢の威厳そして多くの困難により、自らこれらいとも聖なりて敬うべき土地土地を訪ねに行くことが妨げられなかつたならば、教皇の足を上に戴き、従属を捧げ、その後私の頭上にて恭しく接吻するでしょう。あなたの至福の手により示された十字架の印により胸「の信仰」を鍛えたく存じます。しかしながら、先述の事情により、それをする事ができません。「(ネー)で」教皇へ私の代わりに、私の妹と日向王の息子であるドン・ジェローラモを派遣することに決めました。ところが、彼は現在われわれの居城からは遠くにおり、巡察師司祭も出発を急ぎました。その理由により、彼の従兄弟であるドン・マンシヨを派遣することが適当であるとみなしました。その結果として、地上における神の代理としてお持ちのお立場において、教皇陛下により大いに助けていただけるとの考えられています。私とこのキリスト教徒の群集のために、つねに

sentì lettere l'undecimo giorno di Gennaio de l'Anno dopo la venuta del signore 1582

Prostrato in Terra a santissimi piedi di vostra Beatitudine

Francesco Re di Bongo [Gutierrez]p.59]

有馬王ドン・プロタジオの手紙⁽¹⁹⁾

先述の有馬王ドン・プロタジオの手紙または手紙の文責

この書を、神の代理として尊敬する、偉大にして清らかなるあなたさまへ捧げましょう

神のお恵みとともに、慎み深く謙虚に、教皇聖下へこの手紙を差し上げます。主のご到来の一五八〇年の四旬節の季節から、二年になります。その頃はとりわけわれらが主キリストの特殊な受難を崇敬しておりますが、大きな戦争とすべての私のまたは家族の事々の大きな激動に巻き込まれておりました。すなわち、諸事業の一方で、尊敬する巡察師と他のイエズス会の神の言葉の伝道者たちを介した真の救いの道と、真実の光を示してくださいとされる慈悲の司祭にふさわしい、親切から閉ざされた奥底から抜け出せずにおりました。彼らは力強く私を助けてくださいました。彼らの仕事を通じて、彼らは私と神聖なお恵みによるすべての私の洗礼の秘蹟、そして天への望みの露のために嘆願してくださいます。そこでは総じて、このように大きなお恵みに対して、天の王へ限らない謝意を申し上げます。そして教皇聖下がすべてのキリスト教徒の群れを養ってくださいますので、「私は」とりわけみずからあなたさまの御元へ参り、教皇聖下の恭順を示すため能うる限りの謙譲とともにひれ伏し、その後私の頭上にいとも清らかな御足をおき捧げたく思っております。ところがいくつかの支障により、そ

れを片付けることなしに、それをする(ことができないでいます)。「ここで私は」この私の望みを私の名において貫徹するために、同巡察師とともに私の従兄弟であるドン・ミケレを派遣します。その望みにより、教皇聖下は私の考えと求めるであろう事柄を理解なさるでありましょう。それゆえに私の名において言及されるであろうものが、煩瑣にはならないであります。すべての魂の純粹さをもって尊敬し、深遠なる謙譲をもって敬礼します。御主御到来後の一五八二年一月八日。

教皇聖下の靴にしたがうドン・プロタジオ

Lettera di Don Protasio Re degli Arimani

c.73 r

Lettera di Don Protasio Re degli Arimani soprascritta o sia mansione della lettera

Apresentisi la lettera a quel grande et santo signore ch'io, adoro come vice-regente di Dio [Gutierrez]p.59]

Con la gratia de Dio, dimessamente et humilmente offerisco alla santità vostra queste lettere. *Doi anni sono che fu l'anno della venuta del signore 1580 nel tempo della quaresima nella quale particolarmente si riuersse la pretiosa passione di Christo nostro sig.re mentre mi ritrovano impiccato in grandissime guerre et in gran commotione di tutte le mie cose, et della mia famiglia, et in somma mentre mene giacevo nel profondo delle tenebre de i gentili si degno il padre delle misericordie di dimostrarmi il vero cammino della salute et la luce della verità mediante il venerabile visitatore, et d'altri predicatori della parola de Dio della compagnia del Gesu', i quali gagliardamente mi aiutorno, et per opera de quali impetrarono per me et*

per tutti i miei dala Divina gratia il sacramento del Battesimo, et la rugiada de i favori celesti, ([Gutierrez]pp.59-60) la onde sommanamente allegro per cosi alto beneficio rendo infinito grate al Rè de cieli. Et perche la santita vostra nutrice tutta la grege del cristianesimo, hebbi particolarissima voglia di venire presentiamente alla vostra presentia et prostrato in terra con ogni humilita maggiore render obedientia a vostra Beatitudine, et dopo havergli bassati i santissimi piedi porti sopra la mia testa, ma perche impedito da
c.73 v

varii accidenti mi è tolto il poterlo eseguire, mando con il medemo visitadore, Don Michele mio cugino acioche a mio nome dia perfettione a questo mio desiderio dal quale vostra santità intendera i miei pensieri et quello che procuri, et perciò non saro piu longo, rimetendomi a quello che essi in mio nome vi dirano. Et adorando con tutta la sincerita del l'animo la santità vostra, con profunda humilita me le inchino alli otto di Genaro de l'anno doppo la venuta del signore 1582.

Don Protasio che si sottomette alle scarpe della santità vostra

おわりに

紙幅の都合上、今回の収録は右の範囲に留めざるをえない。それぞれの項目に注を付したとおり、既刊の關係史料の内容と重複する点も少なくないが、日本がヨーロッパよりも先に出版の技術をもっていたことを指摘するなど興味深い点も散見する。それらのなかでも、本年度は一行のひとり中浦ジュリアンの列福式がおこなわれたこともあり、

彼らの立場ならびに中浦ジュリアンとローマ教皇グレゴリオ一三世の謁見について簡単に整理を試みたい。

天正遣欧使節の構成員としては一般に、伊東マンシヨ、千々石ミゲル、原マルチノ、中浦ジュリアンの四名の存在が著名である。この四名の立場の如何については、じつは若干の見解の相違が生じている。

若桑みどり氏は、四名のうち中浦ジュリアンが病により教皇との公式謁見を欠席し、しかのみならず『デ・サンデ天正遣欧使節記』にもジュリアンの事情にはほとんど言及がないことを「変ではないか」と位置づけ、次のように推定する。ローマ教皇庁はジュリアンを重病だということにして、謁見に同席させたくなかったのだとし、その背景に「三王礼拝」の故事があり、東方の三王が三人の公子を派遣したのだと指摘する。この点はヴィチエンツァにおける「日本使節到来メモ」から裏付けられるとしている。若桑氏が指摘する以外にも、三王が三使節を派遣したとする理解は確認することができる。彼らが持参した書簡が、大友義鎮、有馬晴信、大村純忠三名の合計三通であり、教皇と会見し、それらを実際に手渡した少年たちが三名であったことから、そのように認識されたものと思われる。伊東マンシヨと日向王、千々石ミゲルと有馬、大村両氏、原マルチノと「肥前王」との關係を指摘するものもあるが「肥前王」が誰を指すのかは明確ではない。

ところが本稿所収の大友、有馬（大村書簡は次号掲載の予定）書簡にも明記されているように、伊東マンシヨは大友の意向を受け、千々石ミゲルは有馬、大村両氏の意向を代表するものと記されているもの、原マルチノおよび中浦ジュリアンについて同様の記述をみることはできない。本年度記冒頭においても、伊東マンシヨを主席、千々石ミゲルを次席、彼らが他のふたりを同行したと位置づける。四名を二

名ずつにわけて二名の貴族と、二名の同行者を派遣するという構図は、じつはアレッサンドロ・ヴァリニャーノが最初期から示している構想でもある。²³⁾ すなわち、直接当事者の情報によれば、厳密な意味で使節の役割を果たしたのは、四名のうち二名だといえる。このことから、三王が三使節を派遣したとする図式は、必ずしも彼らに関心を示していない、モデナのエステ家関係者による付会を経た情報だとみることできる。本年代記が使節一行からの聞き書きにより成立したものであることを考慮しても、二名を使節とし、二名をその補佐員と考えるべきではないだろうか。

いわば使節補佐員である中浦ジュリアンは、教皇との公式謁見の場には病欠したものの、本年代記によればその前に謁見を果たしている。ジュリアンの謁見には若桑氏も着目している。²⁴⁾ この点は、先述エステ家関係者筋の情報をはじめ、²⁵⁾ 驚くべきことに三月二〇日に密かに会見があったとする情報も存在する。²⁶⁾ この日は、一般的に一行のローマ到着日とされる二二日の二日前であり、他の記録では翌二一日にヴィテルボを出発し、パルマ出身のアレッサンドロ・ファルネーゼ枢機卿 (Alessandro Farnese) の別荘があるカブラローラへ到着した日とも²⁷⁾ されている。密会が二〇日のことであったのか、はたまた二二日のことであったのかは、予断を許さない。この二日という数がまた意味深なのである。一行のローマ到着前、二日路の地点まで、教皇は護衛の兵士を遣わしている。²⁸⁾ 派遣先はアクアペンデンテ²⁹⁾ だとも、モンテロージ²⁹⁾ だともいわれている。いずれも現在のヴィテルボ県に属する町で、前者は北部のシエナ寄り、後者は南部のローマ寄りの町である。後者の記録ではモンテロージまではファルネーゼ家が兵士を出したことになる。これらの記載のずれが意味するところを解き明かす余力

はないが、中浦ジュリアンが教皇と面会したことは確実とみてよいのではなからうか。

以上、『ウルバーノ・モンテ年代記』の紹介、本文、そして今回の範囲における問題点の整理をおこなった。グレゴリオ三世謁見後にも記録はさらに続くが他日を期すこととしたい。

〔付記〕なお、本稿における翻刻作成にあたってはファビオ・ヴィタリー (Fabio Vitelli) 氏の、邦訳作成にあたっては、イヴレア市立PAガルタ美術館の小山真由美氏のご協力を得た。末筆ながら衷心よりお礼を申し上げる。

- (1) 印刷物としては、京都大学附属図書館蔵のものが著名であり、本年代記の肖像画が底本であるとされる。この点や、京大本における肖像の人物比定については松田博『天正遣欧使節肖像画』人物名異同のことなど(『静脩』三八―三、二〇〇一)に詳しい。
- (2) 天正遣欧使節に関する出版情報については、拙稿「天正遣欧使節の史料学」(『大村史談』五九、二〇〇八)にまとめている。
- (3) 『大日本史料』二、訳文編一八二頁では八日間の滞在とある。
- (4) 一行がミラノへ到着した頃の模様は、ほかに『大日本史料』二、一八一―八二、一八八―八九頁、泉井久之助ほか訳『デ・サンデ 天正遣欧使節記』(雄松堂出版、一九六九)(以下『デ・サンデ』五六二―六三頁にも記載がある)。
- (5) 『大日本史料』一、四頁では、日本はイタリアより小さいとの認識が示されている。
- (6) この点については、大西信行氏のご教示をえた。

- (7) お湯を飲む習慣については『大日本史料』一、一三一、二七七、三〇九頁でも着目されている。
- (8) 『大日本史料』一、二〇〇～二二、二五二～五五頁に関連記事がある。
- (9) 一行の出自については、『大日本史料』一、一一～一二、二四、三〇、三四、三九、二二六、二七二、二七五、三〇五頁など。
- (10) 一行のポルトガル滞在については『大日本史料』一、七六～一〇〇頁、『デ・サンデ』二九六～三一二頁、スペイン滞在は『大日本史料』一、一〇一～五二頁、『デ・サンデ』三一二～五七頁を参照。
- (11) トスカーナ滞在については『大日本史料』一、一五四～九二頁、『デ・サンデ』三五八～八四頁。
- (12) 関係記事は『大日本史料』一、一九二～九三、二〇九～一〇、二二三、二六七、二七五頁、『デ・サンデ』三八七頁を参照。
- (13) 『大日本史料』一、一九三～九五、二一〇～一三、二二七、二六九、二七一～七二、二七四～七五、二九一～九八、三〇五～〇六頁。
- (14) 『大日本史料』一、一九五～九九、二二三～一四、二二八～三六、三〇六頁、『デ・サンデ』三九二～九四頁参照。
- (15) 『大日本史料』一、一九九～二〇〇、二一四、二三六～三七頁、『デ・サンデ』三九四頁参照。
- (16) 『デ・サンデ』三九五～九七頁参照。
- (17) 『大日本史料』一、三三〇には天正二二年一月七日(一五八四年二月八日)付大友義鎮和文書簡が掲載されている。
- (18) 『大日本史料』一、二三九～四一、三一二～三頁に、同書簡のラテン語、スペイン語版の邦訳がある。原文は同書原文編二〇六～七、二七一～二頁。
- (19) 邦訳は『大日本史料』一、二四一～二、三一四～五頁。原文は原文編二〇七～八、二七二～三頁参照。
- (20) 『クアトロ・ラガッツィ』(集英社、二〇〇三)三二六頁。
- (21) 『大日本史料』一、二七一、三〇五、三〇八頁。
- (22) 『大日本史料』一、三〇五頁。
- (23) 拙書『大航海時代の東アジア』(吉川弘文館、二〇〇七)二八一頁。
- (24) 若桑氏前掲書、三一六頁。
- (25) 『大日本史料』一、二九一頁。
- (26) 『大日本史料』一、二六九頁。
- (27) 『デ・サンデ』三八七頁。
- (28) 『大日本史料』一、一九二、二〇九頁。
- (29) 『大日本史料』一、二三三、二七五頁。